

「中野市消防団機能別団員導入計画(案)」パブリックコメントの実施結果

No.	受付日	意見内容(一部要約)	市の考え方
1	令和4年 9月16日	<p>機能別団員導入の背景に関して、団員不足の問題が取り上げられていますが、そもそも今の人たちは、消防団や地域の組織に関わりたくない人が多いため、機能別団員を入れても、結局は一旦消防団を辞めた方が、再度入る形の形式だけの状態になるのではないかと思います。個人的には、消防活動は団員の量ではなく、質の方が喫緊の課題ではないかと感じています。火事場等に駆けつけるときに、最低4名のしっかりと活動出来る人材が居れば、消火活動は可能であると思いますが、その質が追いついていないために、多くの人数を擁し、無駄に時間だけが取られるため、団員たちの活動意識も下がっていると思います。その辺りは、分団長以上の方々がどのように取り組んでいきたいのか、しっかりとの方針を打ち出すべきであると考えます。また、今回の大綱1と2に書かれている事も、よく意味が分かりません。</p> <p>大綱1の大規模災害に関する取組みは、実際に消防団の年間活動の中でほとんど予行練習等行われていないのに、急にやれるわけもないため、年間スケジュール等作成し、具体的にどのような活動をするのか記入しなければ、団員の気持ちは変わらないと思います。</p> <p>大綱2に関しては、新しい装備を配布されても、実際に活動した事がなく、以前の使用していた装備はどのようにしたら良いか、指示もないため詰め所には、整理整頓が出来ない状況であります。その辺の方針も具体的に示してほしいです。</p> <p>大綱3に関しては、既に実施している地域としていない地域の温度差があるため消防団だけで活動は難しいため、各地区の区長の方々ともっと綿密に打ち合わせをお願いしたいと思います。</p> <p>消防団は、各地区によって地域と密接に構築している地域もあれば、そうでない地区もあり、全てを同じ基準に図ることは出来ないと思っています。ただ、そこに入団している人たちは、色々な理由があるにしろ、入団しずれば退団したいと思っています。しかし、今の現状では上記の団員不足の問題により、退団出来ません。ただこの団員不足は少子高齢化の時代に突入し、解決するのは困難であると感じています。</p> <p>ただ、この団員が不足しているという基準自体が本当に実情の不足に合っているのか、検証が必要ではないでしょうか。現状で20人必要な場合を、どうやって10名でも出来るようにするかを考える事が、これからの消防団活動には必要ではないかと思えます。コロナ禍で3年間消防団の活動が出来ていないため、毎月1回でも消防団員を集めて、消防訓練や新しい機械等の取扱いの講習等を行うべきではないかと思えます。</p>	<p>現在策定中の消防団機能別団員導入計画において、国の定める法律や基準に即し、消防団員の確保や処遇の改善を施策として掲げ、団員の士気の向上を図るとともに、入退団や消防団活動のしやすい環境づくりに努めて参りたいと考えております。</p> <p>また、本計画では今まで通りの消防団員(基本団員)は750人に減員しますが、団員負担を軽減した機能別団員220人を新たに創設するもので、団員の総数を見直すものではありません。</p> <p>大綱1の大規模災害対応の訓練については、市の防災訓練の他に、消防団を中心にした水害対策訓練や各種想定訓練を毎年実施することで具体的な活動を示し有事に備えて参ります。</p> <p>大綱2の装備品については、以前の分団支給から個人支給に切り替えることで装備品の管理面と団員の安全面の強化を併せて図って参ります。</p> <p>大綱3の地域との連携については、消防団活動を通じ、地域の防災力の向上に努めるとともに関係機関との連携を密接にして、更なる消防防災体制の強化を図って参りたいと考えております。</p> <p>これからも消防団の長い歴史の中で培われた伝統的な文化や風土を大切にしながら、今回いただいた御意見を参考に新たな政策に取組み引続き地域防災の核となる消防団組織の構築に努めて参ります。</p>